

2020年12月号より「学ぶ・つなぐ・広げる」を連載しています。インフラの整備・管理を通じて社会に貢献するという重要な使命を果たすため、全国の建設技術関係者は、連携・交流を図りつつ、自らの技術力を向上させ、成長していく努力を積み重ねています。本コーナーでは、各地で進められている様々な取組を紹介していきます。

## 学ぶ・つなぐ・広げる

# 四国地区連合会主催 第43回建設技術に関する講習会



みやじま まさし\*  
宮地 正士\*

### 1. はじめに

四国地区連合会では、毎年四国4県で持ち回りにより「建設技術に関する講習会」を開催している。

この講習会は、四国地方整備局と開催する県内の協会で協力して開催しており、四国地区の地方整備局、都道府県、市町村の若手から中堅職員を中心に参加している。講習会では、その地域の課題や関心事などをテーマにして最新の知識や情勢について紹介しており、規模の小さい地方公共団体等では、単独で行事を企画するには負担が大きいですが、このような機関の職員にとっても、技術力の向上、幅広い視野の形成、地域間の連携・交流等に寄与している。

今回報告する講習会ではまちづくりをテーマとしたが、近年のまちづくりは、地域独自の資源を活用するなど、住民、NPO、行政等による協働のもと計画等を策定し、地域の魅力向上に取り組んでいる。

また、一方で平成29年7月九州北部豪雨や平成30年7月豪雨など、近年激甚化・頻発化する災害に対して災害に強いまちづくりも求められているところである。

本講習会「最近のまちづくりについて」（令和元年11月6日開催）では、各自治体等における今後のまちづくりの参考としていただくことを目的とし

て、これら課題等に対応した愛媛県内の各種取組事例の講演があった。ここでは国・愛媛県・松山市の事例を紹介する。

### 2. 重信川かわまちづくり

沿川に松山市などの人口や文化の集積地域を抱える重信川は河川空間の利用が盛んで、愛媛県がしまなみ海道を中心に、全県域でサイクリング環境の充実に取り組んでいる状況下、サイクリングロードなどとしても活用されている。このような河川空間を活用した取組を充実させるため、重信川及び支川石手川沿川の4市町（松山市、東温市、松前町、砥部町）により「自然と人、人と人との出あいの場、重信川」をコンセプトに、回遊性の向上、河川空間を活用した地域の観光振興の促進を図るため、平成31年3月に「重信川かわまちづくり計画」が作成・登録された。本講習会では、実施主体の一つである四国地方整備局松山河川国道事務所より以下の取組紹介があった。

(1) かわまちづくり支援制度の概要

(2) かわまちづくり計画立案のための検討体制

愛媛大学の学識者や民間事業者等と意見交換を行う「重信川かわまちづくり懇談会」を設置し、基本

\*国土交通省 四国地方整備局 企画部 技術管理課 基準第二係長

方針の作成のための要望・助言をいただいた。また、流域市町の関係課長及び愛媛県の自転車新文化推進室、中予地方局とともに「重信川かわまちづくり協議会」を設置した上で計画を作成した。

### (3) 重信川かわまちづくり方針

かつての水辺のにぎわいを復活させるべく、3つのテーマを基にした具体的な整備内容や、ミズベリング愛媛発の取組事例（Vertマルシェ）、重信川自然再生事業の既存の環境学習の場との連携などのソフト施策についても紹介した。

- ・ 広場を整備し、マルシェ・サイクルイベントなどを開催することで、「出会いの場をつくる」。
- ・ 治水対策による治水安全度の向上、防災・水防訓練による水防意識の向上を図ることで、「安全・安心な水辺空間をつくる」。
- ・ 防災ステーションや歴史ある治水施設を活用した防災学習、交通や水辺における安全教育を行うことで、「学びの場をつくる」。

## 3. まじめ愛媛のまちづくり

愛媛県における「まじめ愛媛のまちづくり」の取組事例を「①安全安心」「②人口減少」「③にぎわい創出」のテーマ毎に紹介した。

①については、災害に強いまちづくり計画や津波防災まちづくりの取組、②については、中心拠点誘導施設（都市再生整備計画）の整備事例、③については、松山駅周辺土地区画整理事業や新居浜駅前の周辺整備事例、都市再生整備計画事業（宇和島市、



写真-1 まじめ愛媛のまちづくり講演状況

四国中央市、伊予市、西予市）等を紹介したほか、これからのまちづくりの話題として、「スマートシティの先行モデルプロジェクト（松山市）」や「重点事業化促進プロジェクト（新居浜市）」の選定、また、民間まちづくりと連携した地域再生コンパクトシティモデル都市（西条市）の取組、良好な景観形成に向けた市町へのサポートなどの事例も紹介した。

## 4. 松山市の歩いて暮らせるまちづくり

松山市は、市の中心部付近に観光地である松山城、道後温泉が立地し、路面電車と組み合わせて歩行者の利便性向上や観光地で観光客を滞留させるまちづくりを行っており、整備箇所における道路空間再配分と沿道空間活用に係る整備内容や、地域住民等との対話を重視するとともに、民間団体の意見を取り入れた合意形成などの具体的な計画作成から整備までの取組事例を紹介した。

### 1) ロープウェイ通り

観光拠点「松山城」へのメインエントランスと位置付ける「ロープウェイ通り」を道路整備やファサード整備と合わせてトランジットモールの社会実験や住民対話を重視した合意形成による道路空間再配分と景観整備を行った事例を紹介。

### 2) 道後地区における歩行者空間整備

道後温泉駅周辺や道後温泉本館周辺の歩行者の動線整備と、整備にあたっての歩行者等のビデオ観測による現状調査、導線解析、市民参画手法などの事例を紹介した。



写真-2 松山市の歩いて暮らせるまちづくり講演状況

## 5. 本講習会にあたって

本講習会では、愛媛県で実施するにあたって、河川を有効活用する国の事例から、愛媛県内の取組事例や市町へのサポート、最後に松山市での計画作成から合意形成と整備に向けた詳細な取組について、紹介することで、それぞれの視点から見ても他の組織が取り組む先進的な事例が参考になり、参加者にとって有意義な講習会となるようにプログラムを作成した。

また、会場の選定においても講演で紹介されるJR松山駅や松山市の都市計画整備箇所の近隣を会場とすることで、講習会と合わせて現場を見学することができるようにすることで、多くの方に参加して貰うとともに、より広い範囲から参加して頂くことで先進的な取組が広く展開され、本講習会がより有意義となるように工夫した。

### 【著者紹介】 宮地 正士 (みやじ まさし)

平成12年運輸省第三建設港湾局に入局（土木職）。松山港、三島川之江港、徳島飛行場、撫養港海岸、高松港の整備に従事。令和3年4月より現職勤務。

## 6. おわりに

本講習会は、105名に参加して貰うことが出来て、感想にも「先進的な取組を知ることができた。」「自分もこのようなまちづくりがしたい。」といったものがあり、講習会開催の目的を十分に達成出来たと思っっている。本講習会により、先進的なまちづくりや地域との協力する体制などの知見が広がり、より良いまちづくりが行われることを祈念している。

昨年は残念ながらコロナ感染拡大により講習会は中止となってしまったが、今後も引き続き参加者にとってより有意義な講習会の開催を目指したいと思っっている。

詰 碁

黒 先

出題 土井 誠 八段

〔ヒント〕  
生きの基本形。さて、黒1の筋は？

〔あなたの棋力は？〕  
5分……………初段  
(解答は80頁)

詰 将 棋

出題 石田 和雄 九段

〔ヒント〕  
俗手から入ります。

〔あなたの棋力は？〕  
5分……………二段  
10分……………初段  
(解答は80頁)